

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201967		
法人名	有限会社 ユニ		
事業所名	グループホーム パール針尾(Aユニット)		
所在地	〒859-3451 長崎県佐世保市針尾東町2162-1		
自己評価作成日	平成28年12月一日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成29年1月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」をモットーに利用者の皆様が出られる限り、自分の生活を自分のペースで職員の援助を受けながらも、健康で楽しく過ごせるよう支援している。当ホームは国道206号線に面していて、外から見るととても危険な場所だと思われがちですが、昼間は玄関及び門の施錠は行わないケアに取り組んでいます。利用者の方が外に出よう出ようとされる時は、必ず職員が付き添いお話ししたり、散歩したりしながら気分が静まるまで対応します。健康面においては、主治医による訪問診療で体調管理をして頂いています。また、緊急事態発生時には、24時間いつでも連絡取れる体制にしている。必要であれば受入先の病院の紹介をして頂き救急車にて搬送し、ご家族が来られるまで職員で対応いたします。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を念頭に置き、利用者がホームでの生活の中で、楽しく、寂しい思いをしないよう寄り添い、会話することを心がけ支援している。ホームでは各委員会を設置し、職員へ不適切ケアになっていないかアンケートを実施し、改善点をまとめ職員会議で振り返る機会を設け、支援に活かす取組みは特長である。職員の意見を活かし、ホームの顔である看板を新しくするなど積極的に改善した事例は職員のモチベーションに直結している。家族に向けては家族会にてホームの状況も伝え、食料費の見直し等を説明し、書面を通して全家族に確認するなど、信頼関係の構築に繋がっている。また、積極的に地域と交流しており、地区の敬老会では婦人会に呼び掛け、一緒に踊りを披露したり、畑に倒れた高齢者を職員が助けたことがきっかけで、作物をもらうなど親交が深まっている。現在は職員数が少なく、利用者への支援に支障がないよう努力している様子が窺える。一日も早く、ホームが目指す個別支援が行えることを願ってやまない。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念を全職員で共有し、ゆっくりとした時間の流れの中で、お一人おひとりの生活を大切にしながらも、また共同生活の中で他の入居者との交流によってより楽しい生活ができるように 支援している。	ホームの玄関やリビング等目に付く箇所に、理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を掲示している。職員は利用者がホームでの生活の中で、楽しく、寂しい思いをしないよう寄り添い会話することを心がけており、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地区の定例会があり、毎月の出席はできませんが、地区の一員として毎年運動会や敬老会への参加の要請を受けている。地区敬老会では、地区の婦人部の方々が来所され、入居者が見ている中で職員と練習を重ね出演している。	地区の定例会に出席し、地域の情報を得ている。ホームは積極的に地域交流しており、地区の敬老会では婦人会に呼び掛け、ホーム内で出し物の踊りを職員と練習し、一緒に出演したり、畑に倒れた高齢者を職員が助けたことがきっかけで、作物をもらうなど親交が深まっている事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年10月頃、ホームに隣接している畑で芋ほり作業をしていた80過ぎのお爺ちゃんが畑に倒れていたのを職員が気づき、すぐ車椅子で自宅までお連れし、ご家族に連絡するなどの対応を行った。先日そのお爺ちゃんが今年収穫したさつま芋を沢山持ってきて下さいました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や職員の入社、退社等の件について報告している。また、地域においての情報をお聞きし外出支援に活かしたり、地域の方の所にみかん狩り、イチゴ狩りなどお世話になっている。	年6回規程のメンバーで開催している。会議では利用者へのサービス提供状況や職員の配置状況、事故発生や行事の報告、意見交換が行われている。外出支援に役立つ情報や地域の防災認識を確認する機会でもあり、意見をサービス向上に活かしている。議事録は家族に発送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの空き状況、待機者状況など、の連絡を取り合いながら、施設サービスを必要とする方々ができるだけ早くサービスを受けられるように取り組んでいる。	行政からホームの状況や待機者に関する問い合わせを受けたり、利用者面談のための訪問がある。書類提出の際は支所窓口に出向き、行政各担当者と連携を取っている。また、行政から案内のある研修を受講し、職員のスキルアップに役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかし、歩行の不安定な方の夜間帯の転倒のリスクの高い場合は危険防止のため、ご家族様の同意のもと時間を決めてセンサーを使用し3ヶ月毎にモニタリングを行い廃止に向けての取り組みを行っている。	身体拘束対策委員会を設置しており、職員へ不適切ケアになっていないかアンケートを実施し、改善点をまとめ職員会議で振り返る機会を持っている。転倒事故防止のため、家族の同意を得て、センサー等を使用する場合もあるが、職員は経過を見て検討し、状況改善に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会に参加し、全職員が理解している。特に新人職員に於いては中々理解が難しいため、自分の言葉や他の職員の言葉が虐待や拘束になっていないかを見直すために年に2～3回のアンケートを取り結果を検討し虐待のないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしているが、現在は必要性がないため活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族様が十分に理解し納得できるように説明し、また、ご質問などもお聞きするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、また、面会時には普段の生活の様子をお伝えすることで、ご家族様がご意見や要望を話しやすいように心がけて運営に反映している。	敬老会の時に家族が集う懇談会を開いており、運営における変更点などを説明し、同意を得る機会となっている。個別に毎月お知らせを送り、1ヶ月間の様子を家族に知らせている。本人・家族から居室を替えて欲しいという要望を受け反映した例がある。また、家族アンケートを行うなど、要望等を収集するため努めていることが確認できる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会の時に意見や提案を出して頂いたり、日常的にも提案を聞く環境にあり、随時反映させている。	ホームでは5つの委員会を設置しており、全体会議で家族に報告している。活動したい委員会について本人の希望を反映することもある。管理者が個人面談し、相談に乗ったり、処遇改善に繋げている。今年度、職員の意見も合わせて、ホームの看板を新しく作り、設置した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、給与水準、労働時間の見直しを行ったり、各自が目標を持って働けるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が研修を受講できるよう、受講費用、交通費等の支給をしている。また、管理者は、職員の能力に応じた研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区グループホーム連絡協議会9事業所でフリートークという研修の場を設け3か月に1回位のペースで手作りの勉強会を行っている。今年初めての試みとして11月1日に9事業所での入居者による風船バレー大会を開催し、職員、ボランティア総勢100人位の参加で大盛況でした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問し、面接をさせて頂いている。その時点で時間をかけてゆっくりとお話を聞くことによって入所に対しての不安をなくし、安心して入所して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の希望があった際に、事業所の担当ケアマネさんから、ご家族様や本人様の要望をお聞きし、また、契約時にはご家族様の不安や思いに耳を傾け、気持ちに寄り添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様がその時にまず必要としているサービスはもちろんですが、それまで関わって来られたサービス事業者のケアマネさんなど第三者の意見も取り入れながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と生活しながら、出来ること、できないこと、の見極めを行い、できること、得意なことなど、たとえば食後のお茶わん拭きや、テーブル拭きなどして頂くことによって、自分が必要とされているという喜びを味わうことで居場所を見つけられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所締結時にご家族様に、この部分は職員で対応できますが、こういうことは、基本的にご家族様で対応して下さいとお願いし、どうしても対応できない時は言ってくださいと伝えておく。特に専門病院の受診などお願いし家族の絆を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や知人の関係が途切れないように電話をかけたたり、かかってきたときの取次ぎしたり、また、電話を代わって頂き近況報告をしている。面会時一緒に外出したいとの要望があれば、お願いするように努めている。	ほとんどの家族は月に1回は訪問している。利用者によっては数人の友人とともに外食を楽しんでいる。以前の職場の同僚や住んでいた近所の人などの訪問もあり、記念写真を撮って居室に飾っている。遠方の家族には電話をかけて声を聞いたり、年賀状が届いた時にも電話するなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、ソファの座り位置など考慮し、お互い少しでも会話を楽しめるよう心がけている。どうしても関わり合いができない方もおられますので、そういう時は、職員が間に入って関わり持つように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも施設や病院への面会に向き必要であれば、ご家族と連絡をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や、サービス事業所の担当ケアマネさんたちからの情報を受けできるだけ意向に沿うよう検討している。	職員は、朝のバイタル時のほか、リビングで利用者の隣に座ったり、居室でゆっくり時間を取って、本人の意向を聞き取っている。知り得た情報は職員間で申し送りし、記録して共有している。特に生活歴は、聞き取った職員が基本情報に書き足している。発語困難な場合は、選択肢を準備して判断を仰ぐなど工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについては、ご家族や、サービス事業者との連携を取りながら生活環境、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や、表情を観察し記録に残し、残存能力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活おして頂くために、定期的にカンファレンスを開き、本人、家族、関係者の意見も反映しモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。	長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標を立て、介護計画を作成しており、入退院後には都度見直している。毎月カンファレンスを実施しており、支援内容を検討し、計画に援助方針の詳細を記載している。家族に署名捺印をもらう際、意見要望を聞いているが、希望等の収集ができておらず、本人・家族の意向の記述内容に変化がない。	ホームは、これまでに家族の意向抽出のためアンケートを実施し、希望を聞き取るよう努めている。現状に即した本人のための介護計画となるよう、本人・家族から希望を聞き取る工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や介護計画の実践・結果、気づき、業務日誌の申し送り事項などを通じ情報を共有し、それを実践した、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情により協力を得られない方もおられるので、職員にもその認識を持って頂き、専門病院への受診や散髪に出かけるなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるバンド演奏や月2回講師を呼んで3B体操を行っている。消防署の指導による避難訓練にも取り組んでいる。また地域の方のご協力によりみかん狩りやイチゴ狩りなどの体験もさせていっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の訪問診療を受けている。また、専門医への受診が必要である場合は、家族と相談の上適切な医療を受けられるように情報提供をして頂いている。	これまでのかかりつけ医を継続しており、新たに専門医を受診する場合には協力医に相談し、家族に紹介している。通常は家族が付き添っているが、初回の受診は職員も同行している。月2回の往診を受けている利用者もあり、結果は職員間で共有している。緊急時は、協力医と24時間連絡が取れ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、協力医院の看護師と常に情報を共有し、必要時には先生との連携を取り適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、安心して治療を受けられるように、情報提供を行う。それから、早期に退院できるよう病院側の地域連携室の方に、退院後の食事管理やお薬の変更など早めにお聞き職員に周知しておく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームに於いての、終末期の対応は、施設の造りや設備の面から考えて、本人、家族の満足を得るような支援は困難であり、そのため入所前にはご家族にどんな状態になったら特養とか、老健に紹介させて頂くことを説明している。	ホームは、終末期の対応を行わないことを利用契約書の特記事項に記載し、家族に説明している。利用者の状況に応じて、協力医に相談し、家族と話し合いを行い、他施設の紹介や転居の準備を支援している。急変時に職員が心臓マッサージで対応し、病院に搬送した事例があり、ホームに於いてできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習Ⅰを受講し、急変時や事故発生時に備えて応急手当や初期対応、AEDの使い方などの訓練を受けている。しかし、当ホームにはAEDを置いていないため、今までは心臓マッサージで対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災時の時の避難訓練は、基本的に毎月、夜間、昼間設定にて実施しているが、その度に職員も反省点が多く、うまくできない状況です。自然災害の訓練がまだできていないので、近日中に計画しています。	不定期ではあるが、年7回消防訓練を実施しており、うち1回消防署立会いの下、夜間想定避難・消火・通報訓練を行っている。毎回、結果報告書にまとめているが、評価記録が残っていない。また、今年度、自然災害マニュアルが完成したが、訓練はこれからであり、非常時持ち出し品に関して、利用者情報等検討中である。	ホームでの訓練後の評価を記録し、次の訓練に活かすことが望まれる。また、マニュアルをもとに自然災害の訓練の実施、非常時持ち出し品の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねないよう対応している。特に入浴時や排泄時の対応についての言葉掛けには十分配慮するよう職員間で周知している。	職員は利用者の尊厳を重視し、声を掛ける際はさん付けで呼んでいる。また、居室内のトイレであっても使用時はカーテンを閉め、使用したパッドは新聞紙に包んで破棄するなど羞恥心に配慮している。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、個人名のファイルは所定の場所に保管している。ただし、居室のドアが開いたままである。	居室は利用者のプライベートな空間であるため、本人の尊厳を尊重し、居室のドアの開閉は適宜行うことが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、1人ひとりの思いや希望を聞いて、外出支援先などの決定をしています。また、時には電話がしたいと言われ、自分で番号まで覚えておられかける方もおられます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションの時に部屋でテレビを見たいとか、ベッドに横になりたいなどの希望があればそちらを優先して頂くよう対応する。皆さんの声に誘われて、自ら参加できるよう期待しながら対応することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びると床屋に行きたいと言われる方もおられるので、病院受診を兼ねて行ったり、ご家族にお願いしたりしています。洋服も自分で選べる方には選んでいただき、自分好みのおしゃれを楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的にもやしの根きりや玉ねぎの皮むきなどして頂いている。また、食後にはテーブル拭き、お茶わん拭き、お盆拭きに分かれ片付けをしている。	給食委員会で献立を立てている。不足した食材は隣の産直まで利用者も一緒に買い物に行くこともある。調理を担当する職員が数人おり、片方のユニットで両ユニット分の主菜を調理している。誕生日には本人の希望を聞き提供したり、アレルギー等代替品を準備している。ホットプレートで焼きそばを調理し、みんなで楽しんでいる	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し毎日記録している。糖尿病の方には、食事量を調整し、一人ひとりの状態に合った支援をしている。誤嚥しやすい利用者にはトロミを付けたり、歯が弱い人には、キザミやミキサー食等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。一人ひとりできることが違う為、歯ブラシとコップを準備するだけの人、うがいはできてもブラッシングのできない人、全介助の人、磨き直しの必要な人など、さまざまなのでそれぞれに合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録も残しておく。訴えや要望に対してはその都度対応し、パットやパンツへの失敗を出来る限り少なくするよう支援している。	各居室にトイレがあり、職員は排泄チェック表に記録し、定期的に誘導している。排泄誘導の必要がない利用者には見守りにて支援している。夜間ポータブルトイレを利用する際は、その都度清潔を保持し、快適な環境となるよう配慮している。毎月のカンファレンスで検討し支援した結果、オムツからリハビリパンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自然排便が困難な方にはお薬で対応したり、食物繊維を多く摂る様にしたり、水分摂取、運動することで腸の動きを活発にすることで、便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日置きに入れるようにしている。本当は、好きな日に好きな時間に入れるのが、一番いいのかも知れません。ところが、一人で介助なしで入れる人は現実的に考えて、おられません。職員の勤務時間内で気持ちよく入れるように楽しく会話しながら入って頂いています。	火曜日以外は毎日湯を沸かしており、日に数人の入浴を支援している。拒否時は無理強いせず、職員を変えたり、時間を見ながら声掛けしている。入浴は職員と利用者が1対1でゆっくりと話せる時間でもあり、利用者は昔のことなどを話し、寛いでいる。季節には菖蒲湯やゆず湯なども提供し、入浴が楽しくなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は一人ひとりの生活習慣を大切に、好きなようにお部屋で過ごされる方もおられます。夜に安心して気持ちよく眠れるためには、一人で好きなことをするだけでなく他の人との交流を持つことで疲れを感じ、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のお薬情報はお薬手帳などで常に把握し副作用も理解するよう努めている。また、用法や用量の変更があった場合は申し送りをし、その後の経過を確認し主治医、薬剤師、ご家族に報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後、テーブル拭き、食器拭き、お盆拭きを手伝って頂いてる。テーブル拭きは4人位いるため我先にと競争である。何か手伝いとか仕事をすることで皆さん達成感と喜びを感じているようです。気分転換には、懐メロのCDを聞いたり、塗り絵をしたり、クイズを楽しんだりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望によって戸外に外出するのは中々困難な状況です。自立歩行できる方も少なく利用者一人に職員一人は必ず付き添いが必要ですが、ご家族に応援をお願いするにもその当日にお願いするのは難しい。なので月に数回外出の勤務体制を決めて出かけている	気候のいい時には、利用者の希望を聞きながら、敷地内の草むしりやゴミ捨てなど外気浴する機会を作り、支援している。新聞やテレビの情報、利用者の声から花見の場所を検討し出掛けている。また、年に2回はホテル等にて全員で外食しており、敬老会には家族も集い、利用者と一緒に楽しめる時間となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は事務所で管理しているが、本人さんの希望があれば、ご家族と相談の上持っていただき、外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があった時にすぐかける様に支援している。かけることで安心され、その後精神的に落ち着かれ楽しく生活できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間であるリビングにおいては、一日殆ど皆さんが過ごされますので、季節ごとに掲示物を変えたりみなさんの塗り絵や貼り絵など掲示している。また、健康管理の為に空気清浄機、加湿器、エアコンを設置し、温度管理に努めている。	玄関には季節を感じられるよう花が生けてある。リビングからは、隣接するキッチン調理風景が見え、家庭的な雰囲気である。ソファやテーブル、椅子を設置しており、レクリエーション時や食事時等配置を変えている。毎日、職員が清掃し、気になる臭いもなく利用者が居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを数個設置しておりますが、一つのソファだけ外側に向けて置いてあるので、時々そのソファで外を眺めながら、一人で過ごされたり、時には二人でお話して過ごされている姿があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れたタンスや仏壇など居室に持ち込まれています。好みの絵や面会時の家族写真、カレンダーなど掲示しています。	居室は利用者が使い慣れたもの、好みのもの等持ち込みは自由である。絵画や本、ラジオ、仏壇や若い頃の写真等好みの箇所に配しており、個性的な居室となっている。起床後には掛け布団を畳んでおり、整理整頓されている。各居室にはトイレを設置しており、清掃が行き届いているため臭気はなく、快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはタンスを置いて、引き出しには中身の表示を貼り一人で出し入れができるように対応している。また、お部屋の入り口にはネームプレートを掛け、自分のお部屋が分かるように支援している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201967		
法人名	有限会社 ユニ		
事業所名	グループホーム パール針尾(Bユニット)		
所在地	859-3451 長崎県佐世保市針尾東町2162-1		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」をモットーに、利用者の皆さんがお元気で、出来る限り長生きして頂けるよう 全員目標をひとつにして支援している。食事については、好みに応じて代替え食を提供したり、病状によっては、食事形態を工夫し確実に摂取できるよう支援している。水分については、好みに応じた水分を提供し、また摂取量を記録し把握して脱水予防に努めている。当ホームは国道に面しているが、門、玄関は、利用者さんが不穩の場合と 夜間以外は施錠による拘束を行わないケアに取り組んでいる。外出支援においては、季節に応じた支援にて、ホームに閉じこもらないケアを心掛けている。職員は、利用者の方に、寄り添い傾聴することを一番大切な事とし 常に笑顔で会話を持つよう心掛けている。また、ご家族の方との関わりや絆も大切にしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、楽しく、一緒にの理念を共に持ち食事の前に当ホームの歌パールソングを歌ったり本の読み聞かせやゲーム、また、雑談などをして一緒にゆっくりとした時間を過ごしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の定例会に参加し 地区の敬老会や運動会の参加で交流を図り また、敬老会では、婦人部と職員で踊りの練習を行い披露した		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の人員不足により 余裕もなく地域貢献まで行えなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月おきの運営推進会議では、民生委員の方や 市の担当者、家族代表の方々との意見交換をしアドバイスを頂きホームへの理解とサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者も参加して頂き積極的に意見交換をして情報を得るなど協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを基本に、一部安全の為、家族同意のもと センサーやセンサーマットを使用している。不穩があられたり職員が一人になる時間帯以外は玄關は施錠しておらず 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加し会議にて発表を行い職員全体に内容を周知させ また、身体拘束委員の係りが職員へのアンケートを行い自己啓発をうながしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、家族の方に後見人制度を利用されているので、ある程度の理解はできているが詳しい内容の把握は難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が十分に理解、納得される様管理者が説明を行い そのうえで契約に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、家族会の場で意見を聞いたり、面会時声を掛けるなどして、意見を聞く時間を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議でその月の反省や次回に向けての計画を職員全体で話し合い、一人一人の意見や提案を出して、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々がやりがいがあり向上心を持って働けるように 環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量を把握し 積極的に研修への参加、確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設とのフリートークや勉強会に参加し、交流を持ち、全体会議で報告を行いサービス向上させていく取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、本人との面会の機会を作り、本人の要望や困っていることを傾聴し安心して生活して頂ける様、本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様、要望や困っている事を傾聴し、一緒に考え理解しながら信頼を深め関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を家族と話し合い、見極め、無理のない他のサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に洗濯物たたみ、もやしの根切り、食器拭き、お盆洗い拭きなどお手伝いして頂き、テレビでの出来事や新聞の読み聞かせで、意見を聞いたりして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのお墓参り、外食、病院受診と家族との時間を大切に頂き、受診など対応が困難な場合は、職員で支えていくような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの馴染みの方に、「会いに来て良かった」と思ってもらえる様気持ちよく出迎え、言葉使いにも気を付けている。また、その際、記念写真を撮って居室の壁に貼り、次回来られた際見ていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人にならない様目配りをし、声掛けを行いながら支援している。また、席は、利用者の性格を把握し親しい仲間作りの支援をして、お互いが関わり合い、支え合い楽しく過ごせるよう支援している。家事も出来る事は、手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された利用者へ面会に行ったり家族の相談等受けて これまでの関係を断ち切らない様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を把握し したい事、出来る事と様々な場面で、その希望に添えるか検討しケアを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報により 生活歴やサービス利用の経過を把握し職員に伝達している。ご本人の生活歴などを寄り添い傾聴するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、随時一日の過ごし方、心身状態、ご本人の能力等ケースへの記録で、現状把握に努めている。また、利用者ごとに担当職員を決め、きめ細やかな把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、3ヶ月に1度のモニタリングとご本人やご家族の要望、かかりつけ医や薬剤師の意見を取り入れて 現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や日誌を通し 職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調や、家族の状況など その時に応じ 可能な限り 柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるバンド演奏、講師による3日体操を行ったり 避難訓練では、消防署員を招く等して、安全で豊かな暮らしを楽しめる様支援している。地域の方のご厚意で、毎年ミカン狩り体験をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による 月2回の往診や 専門医への受診が必要であれば、家族と協力医と相談の上情報提供をしていただき、緊急時対応連携もできている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化や気づきがあれば看護師に相談して、主治医と連絡を取り 必要であれば協力医との連携を取りながら 適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、面会に行ったり病院関係者へ病状をお聞きするなどして、情報交換を行い 安心して治療が出来る環境づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化やADL低下など重症化した場合は、家族やかかりつけ医と話し合い 方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急に備えて 救命救急士による研修を全員が受けAEDの使い方を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、避難訓練を行い 職員全員が緊急時の対応ができるよう努めている。また、消防署職員の協力を得て、年2回の火災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアプラン会議等で利用者の関わり方を検討し 排泄時はカーテンを閉めたり利用者の意見を尊重するなど 利用者の誇りやプライバシーを損ねない様 対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を第1に考え 自由に自己決定が出来る様に働き掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運動の為一日2回は体操を行っているが自由にされたい方は、その方のペースを優先にし無理のない参加で声掛けをし ご本人の希望に沿って過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の意思を尊重し 身だしなみやおしゃれの出来るよう 外出時には、職員と一緒に服を選んだりして支援している。自分で着用する衣類を選べない方には、職員が声をかけながら衣類選びを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて 食べやすいよう小さく刻んだり、嫌いなメニューは、別メニューで提供している。利用者出来る事は手伝っていただいて、食器拭き、お盆拭き、テーブル拭きは毎食後、他に、野菜の皮むきなどもお願いしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の体調に合わせ、量を決めている。また、食べやすく盛り付けにも工夫している。毎日の水分量をチェック表で確認し 夜間でも水分補給を行っており、水分をあまり摂られない方には、ゼリーにして、食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い 介助の必要な方には、能力によって見守り、介助を行ったり、義歯は週二回洗浄液につけるなど清潔保持に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるようトイレ誘導を行っている。また、トイレ誘導により失禁が無くなった方には、昼間は布パンツにしたりパットを外すなどしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分不足、薬の副作用等、便秘の原因や及ぼす影響を理解し 毎日の体操や水分補給、排泄チェック表を見て、便秘時には緩下剤を服用するなど便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に応じた入浴が出来るよう入浴剤を入れ 柚子風呂、菖蒲風呂、にぎり湯、森林浴と気分をかえて楽しんで頂いている。また、歌を唄ったり、お話をし、コミュニケーションを取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたいときに入床されるが、眠れないときは、お話をしたりホットミルクをのんでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は、個人のケースに綴じてあり副作用や量は理解している。また、個々の能力に合わせて服薬の介助を行っている。追加や臨時の服薬時には、注意すべき事を申し送るなど症状の変化を随時把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器の拭き上げ等 無理のないお手伝いをさせていただいたり 体を動かすゲームや昔話、歌の集いで楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	芋ほり、みかん狩り、イチゴ狩り、紅葉見物と季節に応じた外出支援をおこなっており外出により気分転換していただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、事務の方で行い、欲しい物があれば 職員付き添いで買い物に出掛け 自分のお金を自由に使えるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはないが 利用者が希望される場合は、いつでも事務所に来られ電話をかけたたり、家族からの電話を取り次ぐことで安心されることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには、季節の花を飾ったり 展示物で四季感を味わってもらい 心地よく過ごせるような工夫をしている。また、温度調整を計ったり、空気清浄機を使用するなど居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室で過ごしたり 希望時には居室へ誘導するなど一人になる支援をしている。また、気の合う利用者は隣同士になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇やご本人、ご家族の写真、使い慣れた品を置かれ 本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動箇所には、手すりが設置しており ご本人が安全に自立した生活が出来る様に工夫してある。		